

<平成 30 年度実績評価>

堺市文化芸術審議会 委員評価中間まとめ

【基本的施策③さかいミーツアート】

(1) 基本的施策

基本的施策	③学校教育における文化芸術活動の充実 学校教育において、文化芸術に触れる機会を拡充するとともに、学校教育と文化施設との連携を推進します。
評価指標	芸術家の学校への派遣割合（計画期間における派遣校数/全小中学校数） （推進計画目標値：80%） 学校教育における子どもが文化芸術に触れる機会の提供に対して満足する保護者の割合（推進計画目標値：75%）

(2) 具体的取組

評価対象とする 具体的取組	さかいミーツアート			
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> 平成 28 年 3 月に「自由都市堺文化芸術推進計画」が策定され、基本的目標に掲げる「自由で心豊かな市民生活の実現」を図るための重点的方向性として「学校教育における文化芸術活動の充実」が位置付けられている。 次代を担う子どもたちを対象とした、文化芸術事業の根幹を支える事業であり、学校現場と派遣アーティストを繋ぐコーディネート機能を強化し、一過性のものでなく、継続性を保つことが必要である。 小・中学校等で多様なアートプログラムを実施することで、次代を担う子どもたちに新たな経験をしてもらうことで、豊かな心と感性を育むことができる環境づくりを推進する。 			
具体的取組の達成度 を測る評価指標	具体的取組指標	目標値	実績値	
		H30	H28	H29
	実施校数	14 校	20 校	19 校
参加児童数	1,500 人	2,006 人	2,263 人	

<平成 30 年度実績評価>

(3) 報告内容

【「具体的取組に対する評価」に関する意見（指標の妥当性、取組の有効性等について）】

○ 指標の実績からみる考察

- 評価指標である「実施校数」について、平成 29 年度の実績値である 19 校から、平成 30 年度の目標値が 14 校に減少しており、基本的施策「学校教育における文化芸術活動の充実」の評価指標である「芸術家の学校への派遣割合」の目標値 80%への達成が難しくなっている要因を考える必要がある。（砂田委員）

○ 取組の有効性について

- アーティストが画一的な内容でプログラムを実施しているが、児童の状況に即したオリジナル性あるものにしていく必要がある。（砂田委員）
- 学校や授業計画、クラス経営における課題解決に寄与するプログラムを提案することで、学校側から当事業に価値を感じてもらえることができる。そのために、教育分野の課題に対して学校側の思考・言語で設計されたプログラムを提案できる見識を、アーティスト及び事業主体が携える必要がある。（砂田委員）

【「全体評価」に関する意見（評価指標の妥当性、新しい具体的取組の必要性、各具体的取組の関連性等について）】

○ 評価指標の妥当性について

- 基本的施策の評価指標である「芸術家の学校への派遣割合」については、専門性あるコーディネーターの育成・確保を前提として 80%という目標値が設定されている。現状の堺市にコーディネート機能は存在していないが、事業予算規模から鑑みて、コーディネート人材の人件費を含むことは可能であると考えられる。（砂田委員）

○ 各具体的取組の関連性について

- 学校や地域において実施される、子どもに関するアウトリーチ系（ワークショップ）事業については、統合や系統化を行うことで、効率・効果において有効な成果が期待できる。また、事業統合により、コーディネート機能の確立に係る費用を捻出することができる。（砂田委員）

【その他所感】

➤